

武庫川水系河川整備計画 進行管理報告書

[令和3年度版] の概要

～ 令和2年度の主な取り組み ～

令和3年11月
兵庫県

目次

武庫川水系河川整備計画

進行管理報告書の概要 ～令和2年度の主な取り組み～

1. 進行管理方法（PDCA）の概要
2. 進行管理報告書一覧表
3. 各対策の概要図（河川対策、流域対策、減災対策）
4. 令和2年度取り組み状況
 - 河川対策
 - 流域対策
 - 減災対策
 - 動植物の生活環境の保全・再生
 - 流域連携
 - フォローアップ

1. 進行管理方法（PDCA）の概要

1-1. 進行管理に関する河川整備計画の記述

＜武庫川水系河川整備計画（平成23年8月）P.80 抜粋＞

本計画の着実な推進を図るため、PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理、フォローアップ委員会（懇話会）の設置を行うとともに、地域住民等との情報の共有化を図る。

(1) 河川整備計画の進行管理

PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を図る仕組みを導入することとし、どのような進行管理の仕組みが可能か検討を行う。そのうえで、下記のフォローアップ委員会（懇話会）の意見を聴き、具体化を図る。

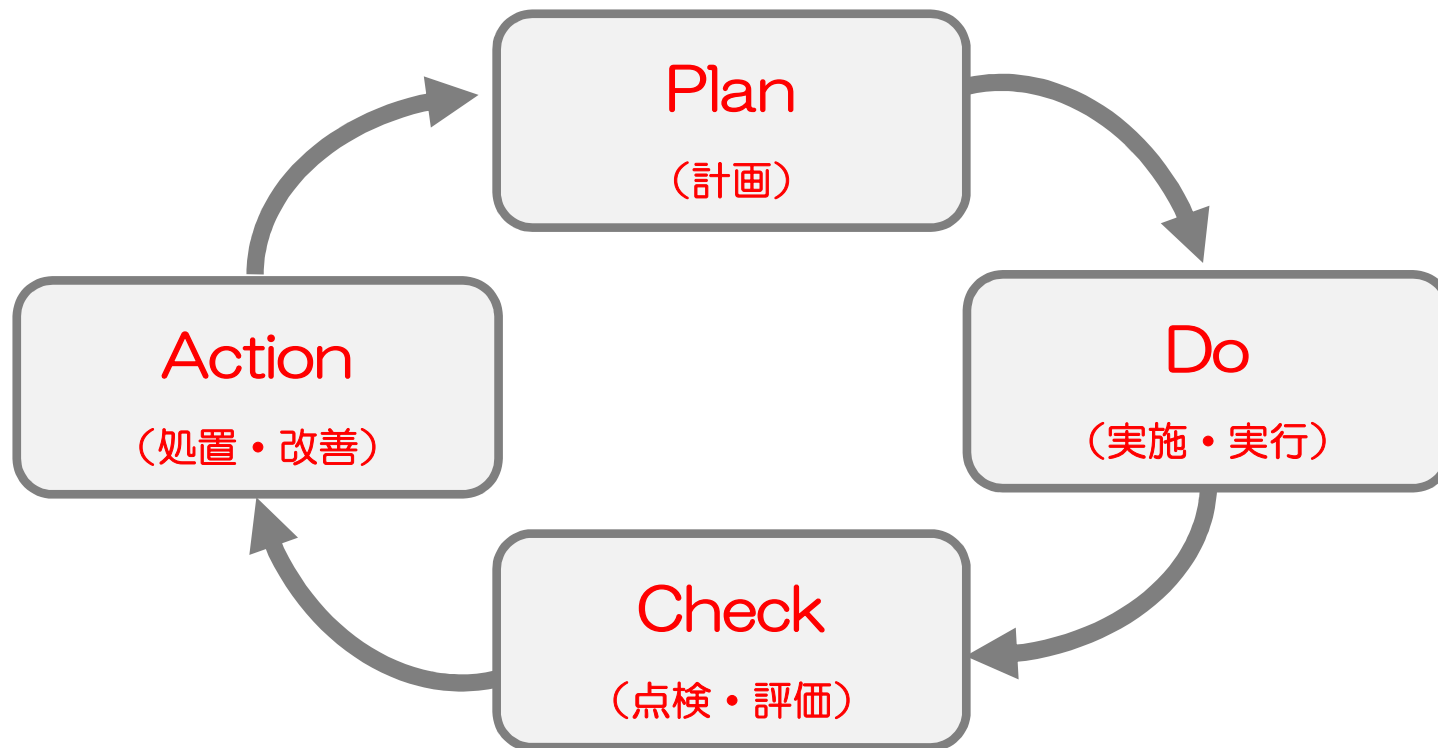
(2) フォローアップ委員会（懇話会）の設置

新たに、学識経験者と地域住民で構成するフォローアップ委員会（懇話会）を設け、施策や事業の実施状況等を、定期的に委員会（懇話会）に報告し意見を聴く。

また、PDCAサイクルによる進行管理の仕組みが具体化した段階で、施策や事業の実施状況の点検・評価を行い、それをフォローアップ委員会（懇話会）に報告することで説明責任を果たすとともに、委員会（懇話会）から意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善につなげていく。

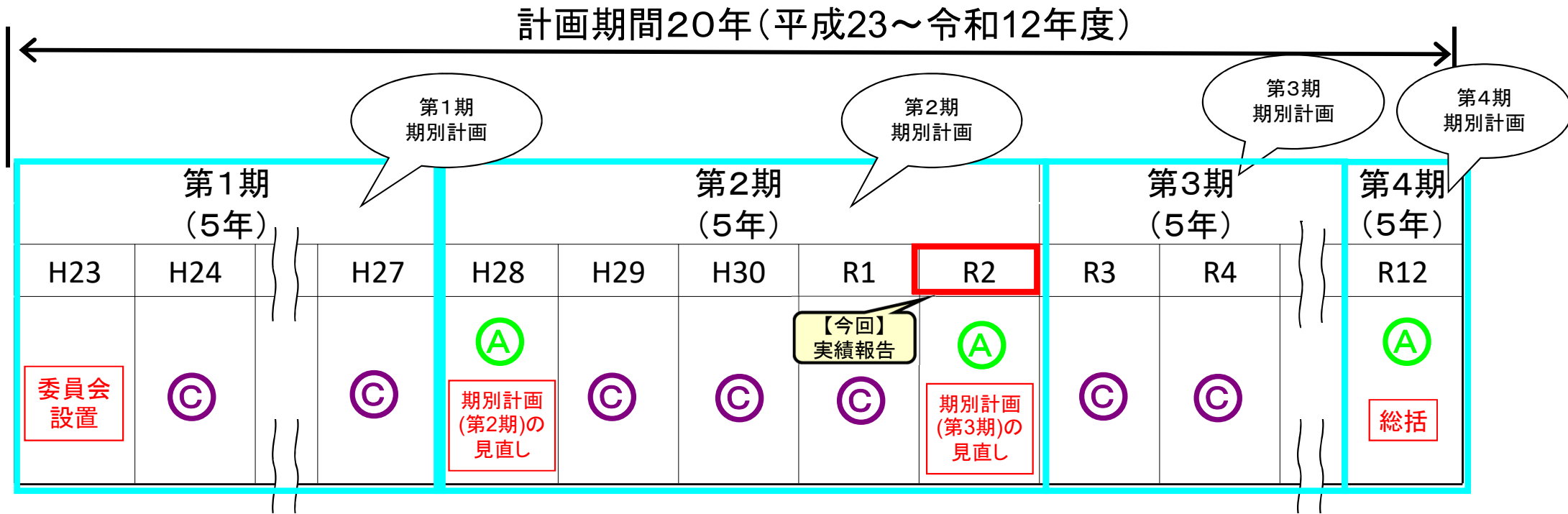
1-2. PDCAサイクルとは

PDCAサイクルとは、計画(Plan)→実施・実行(Do)→点検・評価(Check)→処置・改善(Action)を繰り返しながら、計画の継続的な改善を図る進行管理の手法。



1-3. 武庫川水系河川整備計画の着実な推進を図るしくみ

- ① 計画期間20年(平成23～令和12年度)を4分割して5年を1サイクルとし、5年度ごとに期別計画を定め、これを目標として取り組みを推進する。
- ② 定期的に、委員会(懇話会)の意見を聴いて、期別目標の達成に向けての微修正を加えながら各年度の取り組みを行う。
 - ... (C) Check
- ③ 5年に1度検証を行い、その結果を次の期別計画に反映する。
 - ... (A) Action



1-4. 進行管理（PDCA）の具体的進め方

河川整備計画より抽出した実施目標毎（全22組）に、進行管理点検票を作成し進行管理。

進行管理点検票の構成

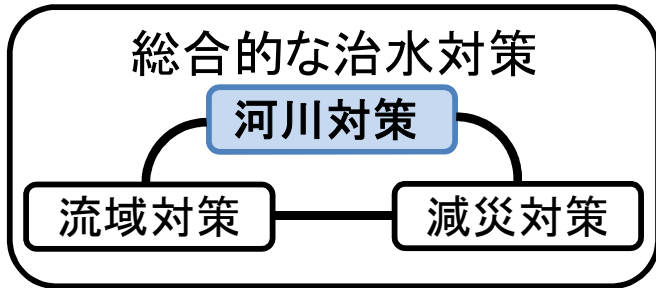
河川整備計画の事項・項目		実施目標および実施施策の具体的内容を記入				実施目標					
施策の概要											
1. 期別計画（P）					2. 実績（D）						
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画（P）				実績（D）				
			第1期（H23～H27）	第2期（H28～R2）	第3期（R2～R7）	第4期（R8～R12）	H28	H29	H30	R1	R2
1. 期別計画（P） 第1期～第4期の計画を期別に記入				2. 実績（D） 毎年度の実績を記入							
3. 点検・評価（C）（第2期 [H28～R2]）											
点検・評価（C） H28			点検・評価（C） H29			点検・評価（C） H30					
点検・評価（C） R1			点検・評価（C） R2			点検・評価（C） R3					
			3. 点検・評価（C） 毎年度の点検結果を記入								
4. 改善（A）（第3期 [R3～R7] に向けて）											
4. 改善（A） 5年ごとの改善方策を記入			⇒			次期（5年）の 期別計画への反映					

2. 進行管理報告書一覧表

管理番号	大項目 (対策名)	内容
1	河川対策	下流部築堤区間
2		下流部掘込区間
3		中流部
4		上流部及び支川
5		堤防強化（支川）
6		堤防強化（下流部築堤区間）
7		遊水地、青野ダム活用
8		洪水調節施設の継続検討 （千苅ダム治水活用検討）
9	流域対策	流域対策
10	減災対策	減災対策
11	正常流量の確保	

管理番号	大項目 (対策名)	内容
12	緊急時の水利用	
13	健全な水循環の確保	
14	動植物の生活環境 の保全・再生	2原則の適用
15		天然アユが遡上する川づくり
16	良好な景観の保全・創出	
17	人と河川の豊かなふれあいの確保	
18	水質向上	
19	維持管理	
20	流域連携	
21	モニタリング	
22	フォローアップ	

3-1. 各対策の概要図 河川対策



① 下流部築堤区間の整備

- ・南武橋上部工
- ・低水路拡幅

② 中流部(武田尾地区)

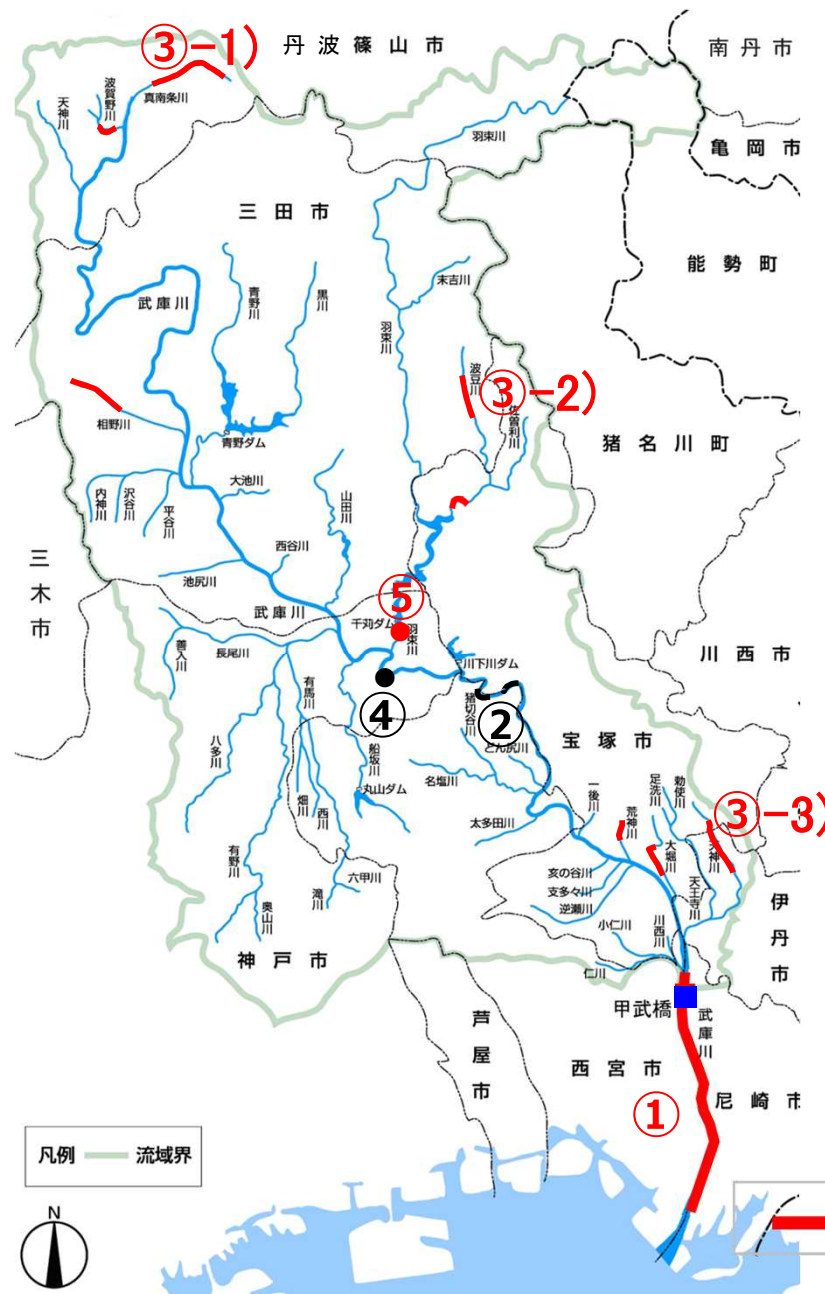
- ・築堤、護岸等の設置

住宅地区

温泉地区

④ 遊水地の整備

⑤ 千苺ダムの活用



③ 上流部及び支川の整備

- 1) 武庫川上流(丹波篠山市)
 - ・河床掘削
- 2) 波豆川(三田市)
 - ・護岸整備
- 3) 天神川(宝塚市)
 - ・堤防強化

図. 二級河川武庫川流域図

3-2. 各対策の概要図 流域対策

総合的な治水対策

河川対策

流域対策

減災対策

①校庭貯留整備

- ・【整備完了】宝塚東高校、阪神昆陽高校、三田西陵高校、西宮甲山高校、北摂三田高校、神戸北高校、有馬高校、宝塚北高校、名塩小学校、三田祥雲館高校、伊丹北高校、伊丹西高校、北六甲台小学校



②公園等

- ・【整備完了】甲山森林公園

三田カルチャータウン太陽光発電所

③ため池

- ・【整備完了】有野大池、平井の池、三田池、名塩貯水池、鎌ヶ谷大池、
- ・【事業中】鎌ヶ谷調整池、八王寺池、倉谷池

③森林整備・保全

- ・人工林間伐、表土侵食防止、混交林整備
- (神戸市、宝塚市、三田市、丹波篠山市)



④水田貯留の推進

神戸市北区等でセキ板を配布



⑤調整池

- ・県は重要調整池の設置に関する技術基準を策定(平成25年)
- ・以下の4市は県よりも小さな開発規模でも調整池設置指導を実施(神戸市、西宮市、伊丹市、宝塚市)



⑥雨水貯留タンク助成

- ・尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市で実施



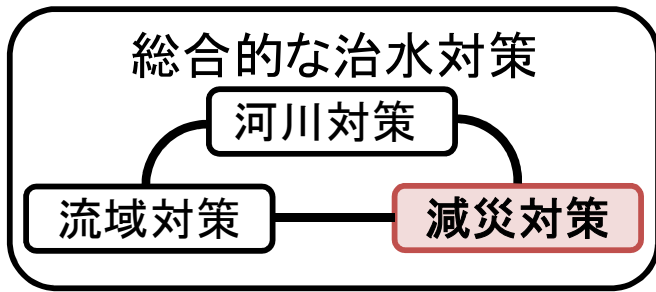
⑦その他雨水貯留・浸透施設の設置

- ・透水性舗装を施工(県)
- ・道路側溝等の浸透化を市で施工(尼崎市、西宮市)



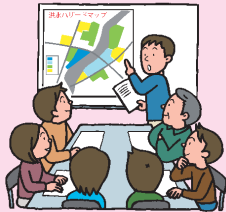
図. 二級河川武庫川流域図

3-3. 各対策の概要図 減災対策



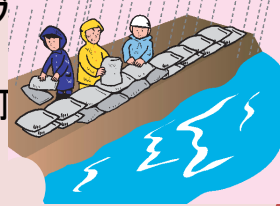
①知る(水害リスクに対する認識の向上)

- ・手作りハザードマップの作成等による水害リスクを知る機会の提供
- ・CGハザードマップの継続公開
- ・出前講座、職員研修による防災の担い手となる人材育成
- ・手作りハザードマップの作成(5地区、流域市計)



②守る(情報提供体制の充実、水防体制の強化)

- ・避難情報を伝達するための河川ライブカメラの継続配信(10箇所)(●印)
- ・水位及び氾濫予測やサイレン、回転灯による河川情報の伝達
- ・土のう積訓練、人命救助訓練の実施



③逃げる(的確な避難のための啓発)

- i) 自助の取組の推進
 - ・ひょうご防災ネットの加入促進
- ii) 共助の取組の推進
 - ・要援護者の情報共有、避難支援組織の立上げ
- iii) 公助の取組の推進
 - ・避難経路、避難所の屋外表示
 - ・隣接市の避難所の相互活用



④備える(水害に備えるまちづくり、水害からの復旧の備え)

- ・建物耐水機能に係る指針策定による重要施設浸水対策の推進
- ・水害に備えるためのフェニックス共済等への加入促進



● 河川ライブカメラ

図. 二級河川武庫川流域図

実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

Plan 【第2期計画】

- 下流部築堤区間（河口～JR東海道線橋梁下流）
- 右岸低水路拡幅：L=1,500m（潮止堰の取合部を除き完了）
- 左岸低水路拡幅：L=580m
- 南武橋：工事着手

Do 【2年度実績】 南武橋架替工事 上部工（施工中）

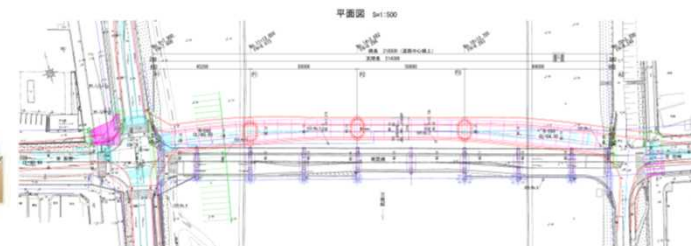
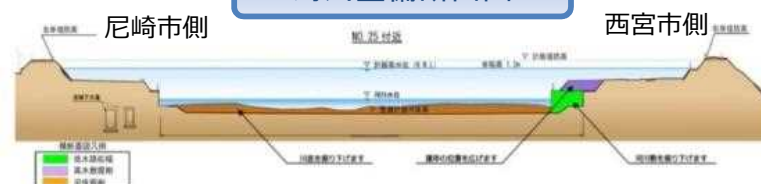
低水路拡幅



上部工施工中

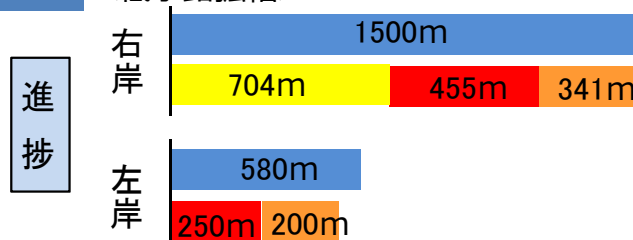


河川整備断面図



Check

<低水路拡幅>



- 第1期～第2期計画延長（H23～R2）
- 第1期完了延長（H23～H27）
- 令和元年度未完了延長（H28～R1）
- 令和2年度完了延長

- 南武橋下部工完成。
- 今後も更なる事業推進を図る。



実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

Plan 【第2期計画】

- 下流部掘込区間（仁川合流点～名塩川合流点）
- 河床掘削：L=0.5km
- 左岸拡幅：着手



Check

- 道路管理者との協議を継続し円滑な事業執行を図る。
- 左岸拡幅部については引き続き交渉を継続。
- 河床掘削500mのうち250mは計画時より河床低下しているため今期は対象外とした。

Do 【2年度実績】

- 西宝橋仮橋着手。物件補償完了。引き続き整備を継続
- 左岸拡幅は物件調査及び用地補償交渉を継続（14軒中7軒契約済）
- 名塩道路工事影響外の河床掘削250mに着手（2年度）



実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

Plan 【第2期計画】

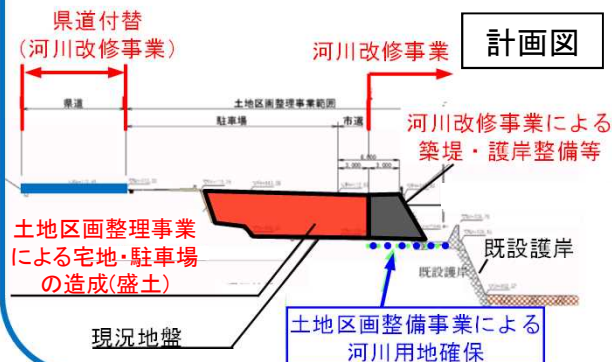
- 中流部（名塩川合流点～羽束川合流点）
- ・護岸整備等
 - 〔住宅地区〕 工事完了
 - 〔温泉地区〕 工事完了



Do 【平成30年度実績】

住宅地区施工状況

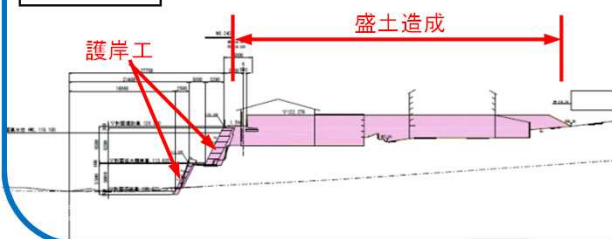
- ・区画整理地基盤整備（盛土）[完了]



温泉地区施工状況

- ・護岸整備 L=140m [完了]

計画図



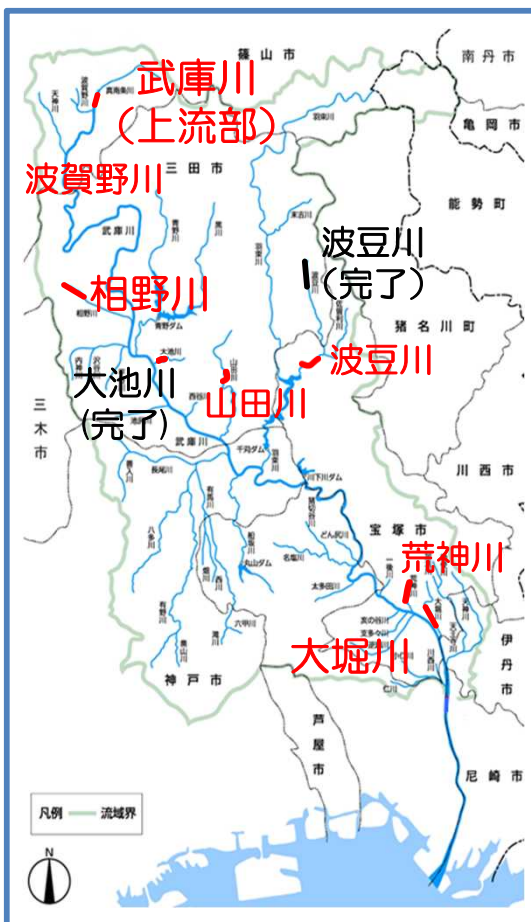
Check

- ・〈住宅地区〉 平成29年度完了
- ・〈温泉地区〉 平成30年度完了

実施目標 各河川の目標流量を安全に流下させる。

Plan 【第2期計画】

- 上流部（羽東川合流点～本川上流端）及び支川
- ・河道掘削、護岸工、橋梁掛替等



Do 【2年度実績】

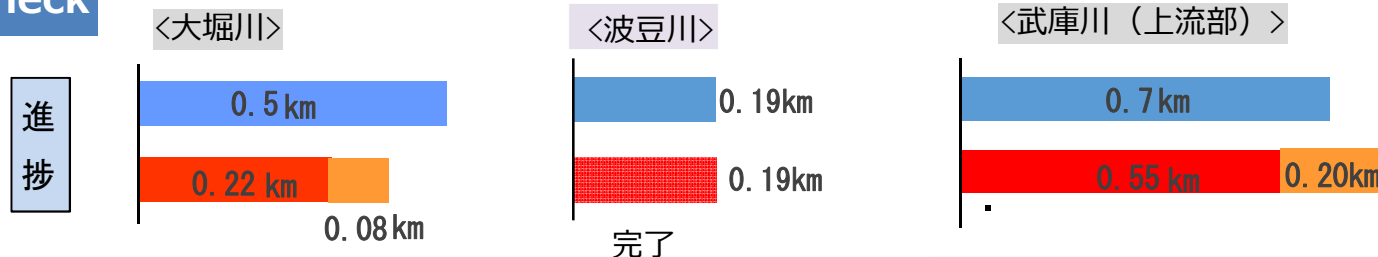
大堀川（宝塚市）
2年度：護岸工 L=80.4m

波豆川（三田市）
元年度：工事完了

武庫川（丹波篠山市）
2年度：河床掘削 L=280m



Check



・ 今後も計画的な事業推進を図る。

- 第2期計画延長 (H28～R2)
- 令和元年度未完了延長
- 令和2年度完了延長

実施目標 洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。

Plan 【第2期計画】

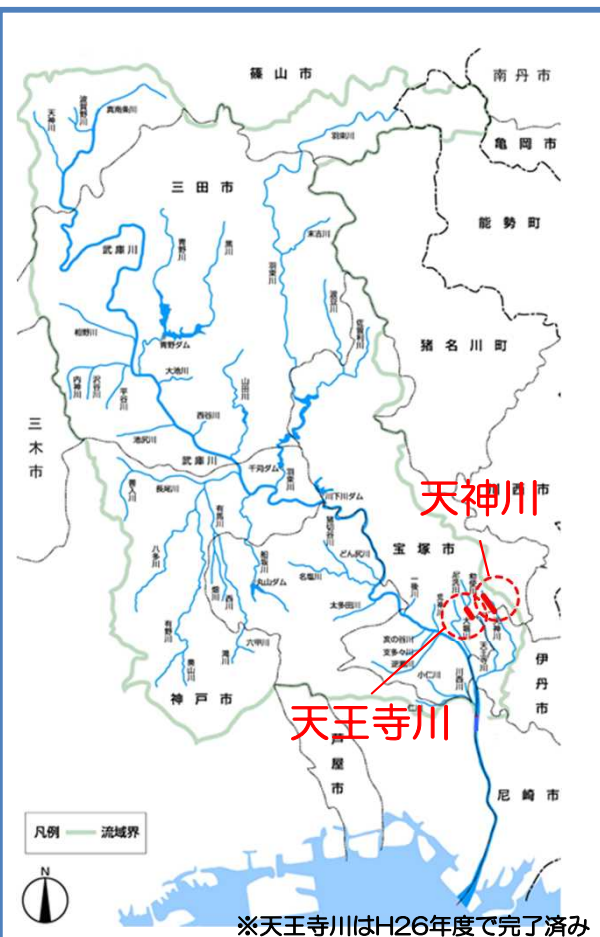
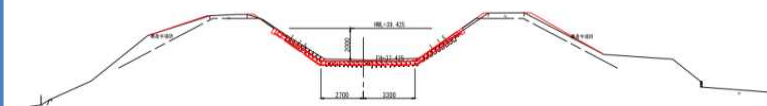
- 天神川（伊丹市，宝塚市）
- ・堤防強化：L=1.0km
- [表のり面被覆工による浸透対策]

Do 【2年度実績】

天神川：表のり面被覆工

- ・天神川：表のり面被覆工による浸透対策 2年度：L=0.53km完了

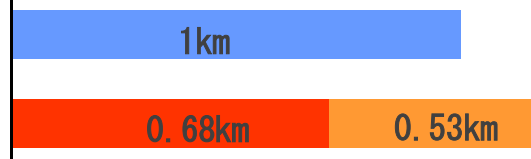
計画断面図



Check

〈天神川〉

進捗



- ・期別計画達成に向け、順調に進捗。
- ・今後も計画的な事業推進を図る。

- 第2期計画延長（H28～R2）
- 令和元年度未完了延長
- 令和2年度完了延長

実施目標

洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。

Plan【第2期計画】

○下流部築堤区間の堤防強化
(南武橋～仁川合流点)

- ・浸透対策：L=1.1km [完了]
- ・侵食対策：L=5.5km [完了]
- ・超過洪水対策：検討

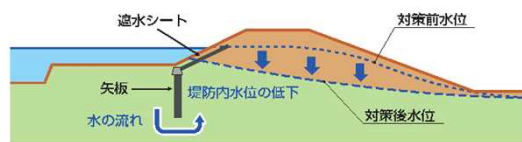
Do【2年度実績】

- ・浸透対策：完了
- ・侵食対策：完了
- ・超過洪水対策：2年度着手

遮水矢板による浸透対策



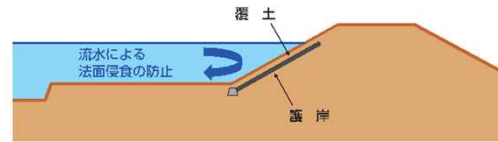
① 矢板 + 遮水シート



ブロックマットによる侵食対策



護岸



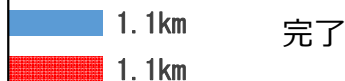
超過洪水に備えた堤防強化

令和元年東日本台風による破堤被害を踏まえ、堤内地側法尻補強に着手
(対策箇所は選定中)



Check

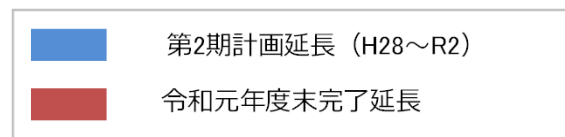
〈浸透対策〉



〈侵食対策〉



- ・期別計画達成。

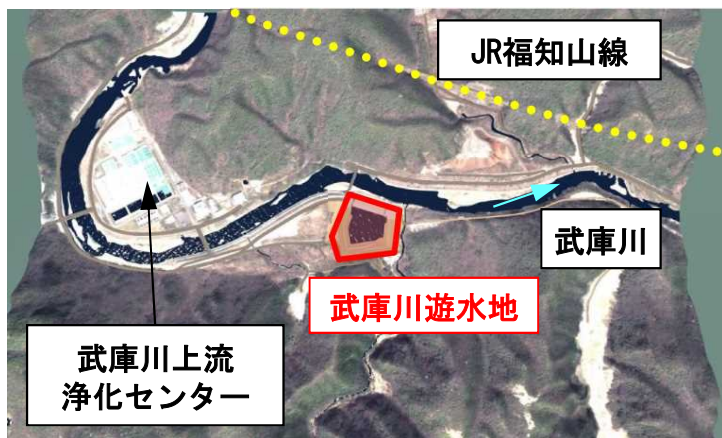


実施目標 遊水地の整備を進めることによりこれまで以上の洪水調節を行う。

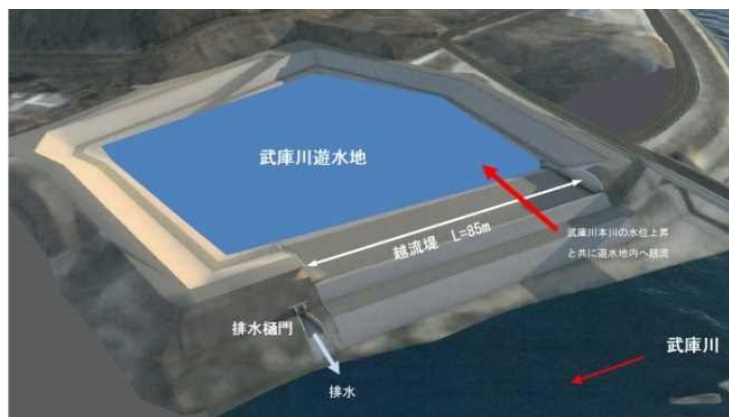
Plan 【第2期計画】

○武庫川遊水地：工事完了

位置図



完成イメージ図



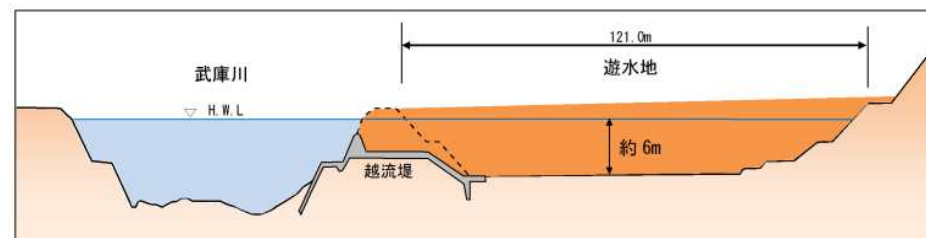
Do 【平成30年度実績】

工事完了

施工前



計画断面図



Check

進捗

工事完了

工事完了

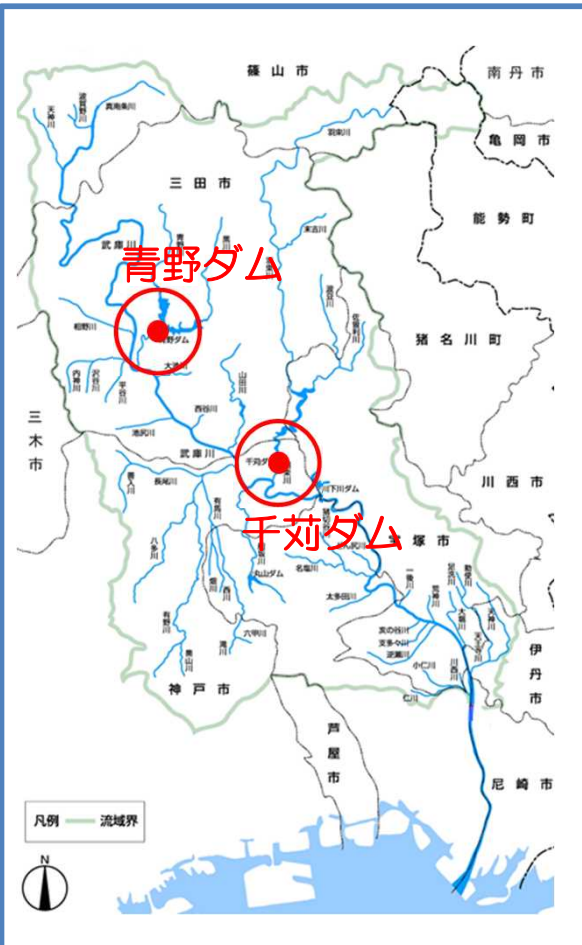
- 第1期～第2期計画延長 (H23～R2)
- 令和元年度未完了

実施目標

- ・青野ダムの洪水調節容量を拡大させることによりこれまで以上の洪水調節を行う。(管理番号7)
- ・さらなる安全度の向上に向けて、利水ダムの治水活用を検討する。(管理番号8)

Plan 【第2期計画】

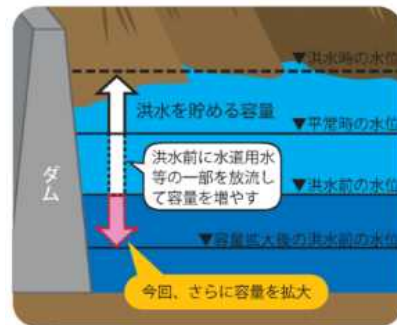
○青野ダムの活用：
事前放流試行操作の継続



Do 【2年度実績】

青野ダムの活用

事前放流量を40万 m^3 に拡大
(R2.6)



これまでの洪水調節容量
容量拡大後の洪水調節容量

洪水調整容量拡大のイメージ

千苺ダムの活用

治水活用
のための
施設整備

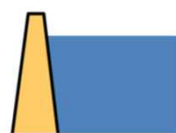
現在運用中の洪水期制限水位から夏期にさらに水位を1.0m低下させて保持し、貯留容量を確保



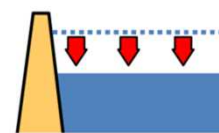
■ 平常時

■ 夏期

■ 大雨



貯水位を低下



貯留容量を確保



雨水を貯留

千苺ダム活用のイメージ

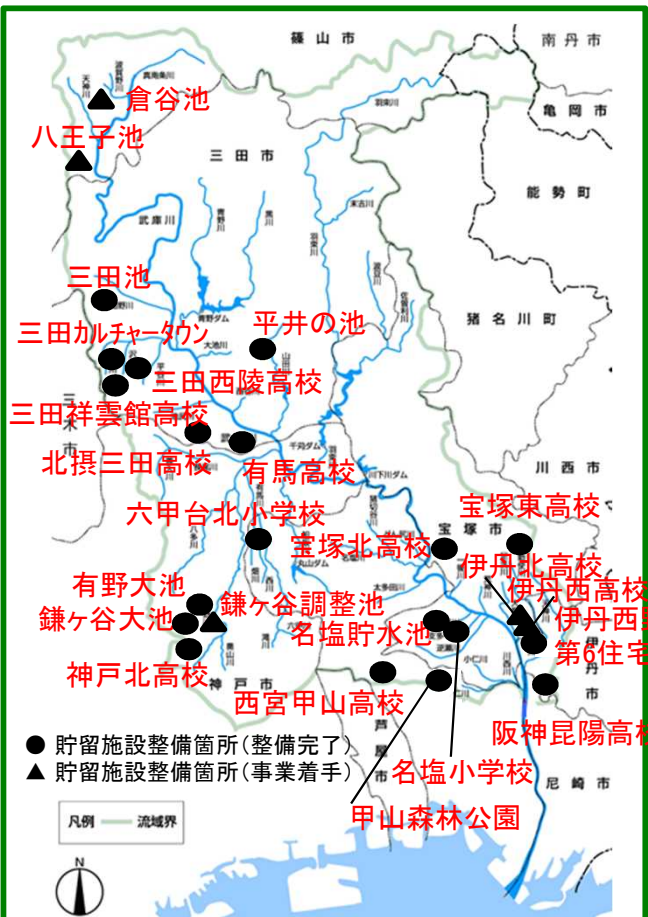
- ※ 貯水池内の水質に影響を及ぼさないよう時間をかけて徐々に水位を低下させる
- ※ 治水活用による水質影響や水量確保（バックアップ）のため三田西宮連絡管との連結に着手

実施目標 学校、公園等を利用した貯留施設等を設置し、流出抑制を行う。

Plan 【第2期計画】

○学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の整備

・貯留量：約12.3万 m^3 完成



Do 【2年度実績】

約 4.2万 m^3 完成

名塩貯水池

治水活用イメージ

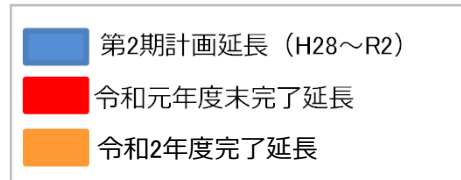
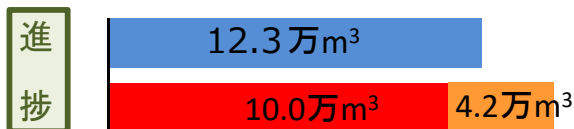
【正面図】 【側面図】

治水活用容量を常時確保 V=約6万 m^3

常時満水位 3m
改修 0.6mの切り下げ
改修後の常時満水位
このままの常時満水位
サーチャージ水位
3.6mの水位低下
改修後の常時満水位

R3.5完成

Check



・第2期の目標貯留量12.3万 m^3 に対し、約14.2万 m^3 、整備計画の目標64万 m^3 に対し、第1期からの累計では、約15.5万 m^3 。

・今後も貯留容量確保に向けて整備を推進していく。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策（森林）

Plan 【第2期計画】 ○森林保全と公益的機能向上

- ・人工林の間伐等（関係機関連携・住民連携）
- ・急傾斜地にある間伐対象人工林の表土侵食防止対策
- ・高齢人工林の広葉樹林への一部誘導（混交林整備）
- ・砂防・治山事業による流木・土砂災害防止対策（H30までに砂防事業3箇所着手、治山事業24箇所着手）

Do 【令和2年度実績】 人工林の間伐や表土侵食防止、混交林整備等を進めた。

令和2年度整備実績



間伐・作業道の開設



緊急防災林（斜面对策）

人工林間伐等	234ha
急斜面地表表土侵食防止対策	101ha
混交林整備	25ha
砂防事業	1箇所着手
治山事業	9箇所着手

治山事業による流木・土砂災害対策



金仙寺No.3谷止工 西宮市山口町

砂防事業による土砂災害対策



高雄台西川（西宮市生瀬高台）

Check

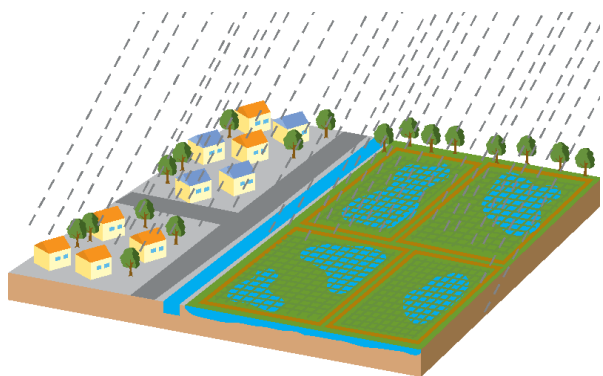
- ・今後も各分野の事業計画に基づき、森林が持つ水源かん養機能、土砂流出防止機能などの維持向上を推進する。
- ・砂防・治山事業による対策は平成30年度の計画目標を超える実績となっている。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策 (水田)

Plan 【第2期計画】

- ・水田での雨水貯留による流出抑制

水田貯留



Do 【令和2年度実績】

- ・神戸市北区長尾町等でセキ板を配布

ため池と田んぼで洪水を防ぐ！雨水貯留大作戦
 ～ 農業の「多面的機能」の発揮による「総合治水」の推進 ～

雨水貯留のススメ!

- ・大雨時に集落内の住居や農地が浸水し困っている!
- ・下流の洪水被害軽減に貢献したい!
- ・農村の多面的機能を都市部へPRしたい

兵庫県多面的機能発揮推進協議会
 兵庫県農政環境部農地整備課・農村環境室
 兵庫県マスコットはばたん

水田貯留「田んぼダム」の手引

田んぼの落水口(＝排水口)に切れ欠のある「田んぼダム用セキ板」を追加し、激しい雨の時に田んぼの排水を抑制することで、雨水を一時的に田んぼに「ためる」取組です。

Step1 取組田の選定

はじめに、雨水貯留に取り組むことについて、集落内での合意形成を図ったうえで、ほ場整備を実施した田んぼを中心に、雨水貯留に取り組む田んぼを選定します。

Step2 あぜの補強

雨水貯留では、大雨時に水位が最大で現行よりも1.0m上がるため、あぜが壊れていると崩壊の危険があります。このため、セキ板を設置する前に水田を点検し、壊れているあぜについては、あぜ盛り機等によりあぜを補強します。

(あぜの高さと幅は3.0m以上を確保)

Step3 セキ板の準備・設置

【田んぼダム用セキ板】

- ・下図のように切れ欠のあるセキ板を準備します。
- ・材質は、木材※やスレートなど一定の強度があるものが望ましいです。

※木材は水位上昇時に浮く場合があるため固定が必要

【設置方法】

既存のセキ板の上に「田んぼダム用セキ板」を設置します。普通の雨は切れ欠から排水され、激しい雨の時に水位が上昇し、セキ板から溢流して排水されます。

【側面図】

田んぼダム用セキ板

あぜ

最大10cm
5~10cm

雨水貯留時の最高水位
従来の水位

一筆排水

【普通の雨】

切れ欠から排水

【激しい雨】

一時に水位が上がりセキ板を越え溢流

水田貯留に係る広報チラシ(平成30年度作成)

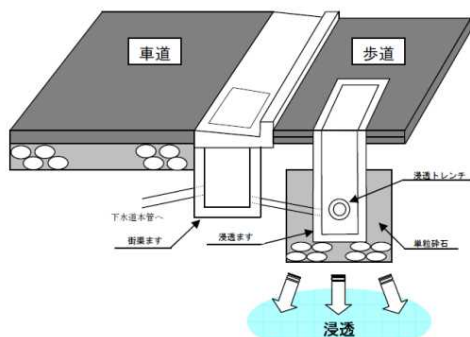
Check

- ・今後も普及啓発と推進方策に取り組んでいく。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策（各戸貯留等）

Plan 【第2期計画】・その他の雨水貯留・浸透の取り組み

道路側溝等の浸透化



浸透側溝設置ガイドライン（改訂版）に基づき浸透化を推進。



公園における舗装の浸透化（神戸市）

各戸雨水貯留タンク

■西宮庁舎

①雨水タンクは庁舎入口横にあります。



県ではPR用雨水貯留タンクを県庁舎に設置し、普及啓発を図っている。



②たまった水をジョウロに移し替えて・・・



③お花に水やり。

Do 【令和2年度実績】

- ・ 公共施設での貯留・浸透施設の設置 : 県営住宅1箇所が整備完了
- ・ 雨水貯留タンクの設置 : 助成基数46件 [累計1,571件]
- ・ 道路側溝等の浸透化 : 約2.7km [累計191km]
- ・ 透水性舗装 : 整備 約6,100m²

- Check**
- ・ 各戸貯留タンクの助成基数は着実に実績が増加。
 - ・ 浸透施設整備（道路側溝・宅内排水等）についても、取り組み実績が着実に増加。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第2期計画】

○水害リスクに対する認識を向上させる ~知る~

具体的施策：①水害リスクを知る機会の提供 ②ツールの整備 ③防災の担い手の人材育成

Do 【令和2年度実績】

①水害リスクを知る機会の提供

①我がまちを歩く
体験型講座の開催



人と自然の博物館
での企画展示



宝塚市

まち歩き実績状況

まち歩き体験型講座等の開催
2年度実績：4回（流域市計）

②ツールの整備

②住民主体による
手作りハザードマップ作成



三田市



丹波篠山市

手作りハザードマップの作成
2年実績：3地区（流域市計）

③防災の担い手の人材育成

③住民を対象とした
防災研修



神戸市



三田市

出前講座の実施状況

防災リーダー講座・出前講座・
研修会等の開催
2年度実績：県：28回 流域市計：64回

Check 水害リスクに対する認識の向上に向け、県・市とも様々な取り組みにより知る機会の提供に努めた。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第2期計画】

○情報提供体制の充実と水防体制の強化を図る ~守る~

具体的施策：①避難情報の伝達 ②河川情報の伝達 ③水防体制の強化

Do 【令和2年度実績】

①避難情報の伝達, ②河川情報の伝達

③水防体制の強化

防災情報提供体制の充実
(宝塚市、丹波篠山市)

防災情報提供体制の充実
わかりやすい量水標の設置(県)

河川ライブカメラによる
継続配信(県)

防災行政無線



デジタル化更新

防災行政無線の整備が進み、一斉即時に音で住民への情報伝達が可能に。



上武庫橋



宝来橋



一後川



荒神川



大堀川

武庫川水系で
5箇所設置

地域住民が自ら避難を開始する基準を決める取り組みを支援するため、わかりやすい量水標を設置。



武庫川水系で
10箇所設置し、
継続配信

「兵庫県河川監視システム」で
Web上で閲覧可能、NHKデータ放送、
YAHOO!でも閲覧可能



水防工法訓練 (三田市)



防災機関との連携訓練
(宝塚市)



水防工法訓練 (伊丹市)



神戸市各区防災訓練

実践的な訓練の実施
2年度実績：流域市計：5回
コロナ禍により回数は減少

Check 県・市とも様々な取り組みにより、情報提供体制の充実と水防体制の強化を図った。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第2期計画】

○的確に避難するための啓発を進める ~逃げる~

具体的施策：①自助の取組の推進 ②共助の取組の推進 ③公助の取組の推進

Do 【令和2年度実績】

①自助の取組の推進

ひょうご防災ネット加入促進

	新規登録件数	目標
令和元年度	152,200件	120,000件/年
令和2年度	151,600件	

③公助の取組の推進

■避難所等を対象に表示板を設置



(神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市)

②共助の取組の推進

■隣接市との避難所の相互活用(西宮市、伊丹市、宝塚市)

■災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化の取り組みを継続実施(流域7市)

■県立尼崎小田高校で外国人居住者、要支援者課題調査、劇による啓発。

■大学と地域住民が連携した避難啓発(尼崎市)

■安否確認をスムーズにする「無事ですてぬぐい」を作成配布(宝塚市)

■自治会防災プラン作成ツールを提供(伊丹市)

■避難計画策定に向け2自治会で訓練(丹波篠山市)

避難確保計画策定状況(流域7市総計)

	計画策定数	対象施設数	策定率
令和元年度	675	2,033	33.2%
令和2年度	1,186	2,266	52.3%



無事ですてぬぐい

Check 住民の的確な避難行動につながるよう、自助・共助・公助の取り組みを各主体の立場で推進した。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減する。

Plan 【第2期計画】

○水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備えを進める ～備える～

具体的施策：①水害に備えるまちづくりの誘導 ②重要施設の浸水対策 ③共済制度への加入促進

Do 【令和2年度実績】

①水害に備えるまちづくりの誘導

- ・地域特性を盛り込んだ防災マップを全戸配布（尼崎市）
- ・掲示板に海拔ステッカーを掲示（伊丹市）
- ・開発業者へのハザードマップ確認依頼を実施（宝塚市）

②重要施設の浸水対策



「建物等の耐水機能に関する指針」による耐水化の促進

建築物等の耐水性能に関する指針
兵庫県



本庁舎中館1F・止水板設置(尼崎市)

③水害に備える共済制度の加入促進

フェニックス共済パンフレット



「フェニックス共済」(＝兵庫県住宅再建共済制度)は、住宅所有者に加入いただき、平常時から資金を寄せ合うことにより、災害発生時に被害を受けた住宅の再建・補修を支援する制度

表. フェニックス共済の加入状況(令和3年3月末時点)

	目標	全県	うち流域市
加入率(%)	15%	9.6%	7.1%
前年度比	—	+0.0%	-0.1%

Check 水害に備えるまちづくりのため、県・市とも様々な取り組みを検討し、実施した。

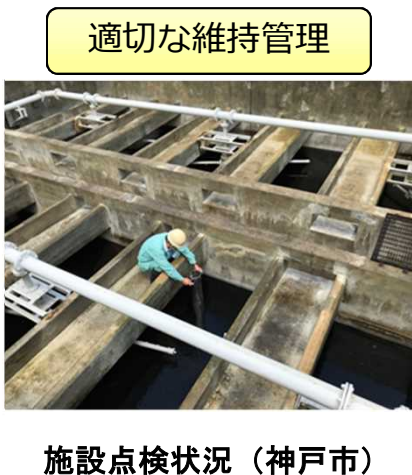
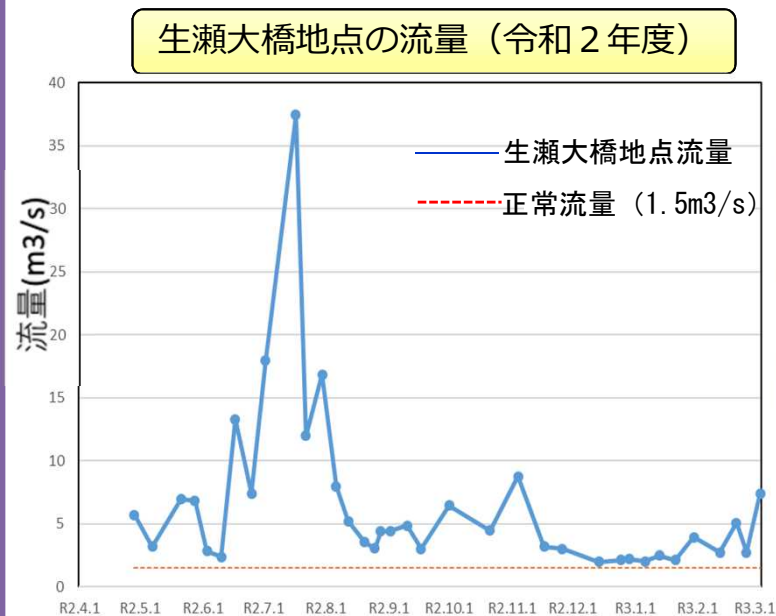
実施目標

- ・ 合理的な水利用を促進し、より豊かな流量の確保に努める。(管理番号11)
- ・ 渇水時の被害の最小化など。(管理番号12)

Plan 【第2期計画】 (管理番号11)

- 流水利用の適正化
 - ・ 取水実態の把握など
- 適正な水利用の推進
 - ・ 節水の啓発・水利用の合理化など

Do 【令和2年度実績】

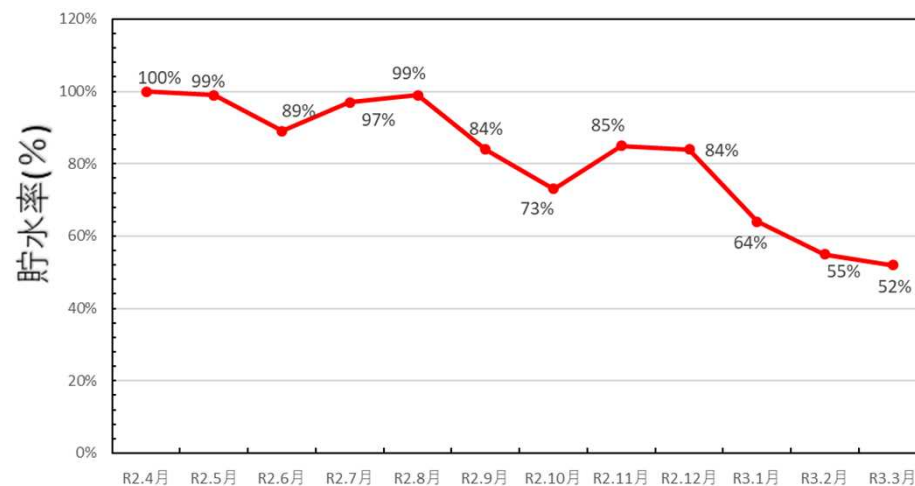


Plan 【第2期計画】 (管理番号12)

- ・ 渇水調整および広域的水融通の円滑化
- ・ 緊急時の河川水利用の円滑化

Do 【令和2年度実績】

青野ダムの貯水率 (令和2年度)



広域水融通のための連絡管整備を県企業庁が継続実施

Check 正常流量1.5m³/sを確保できている。

Check 各市町の新規水道事業は当面は行わない。(既存施設の活用でバックアップ可能)

実施目標

- ・多種多様な動植物が生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生を図る。(管理番号14)
- ・アユなど魚類にとってより望ましい川づくりに取り組む。(管理番号15)

Plan 【第2期計画】 (管理番号14)

- ・動植物の生活環境の保全・再生

上流部

- ・移動性が低い生物の移植対策
- ・みお筋の再生
- ・ワンド・たまりの再生
- ・代償措置としての瀬
- ・瀬・淵の再生
- ・オギ群集の再生
- ・淵やワンド等の創出

Do 【令和2年度実績】

武庫川上流
オグラコウホネ生育地を保全

下流部掘込区間
比高を考慮した河床掘削



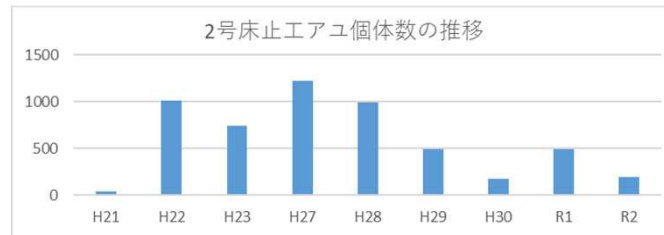
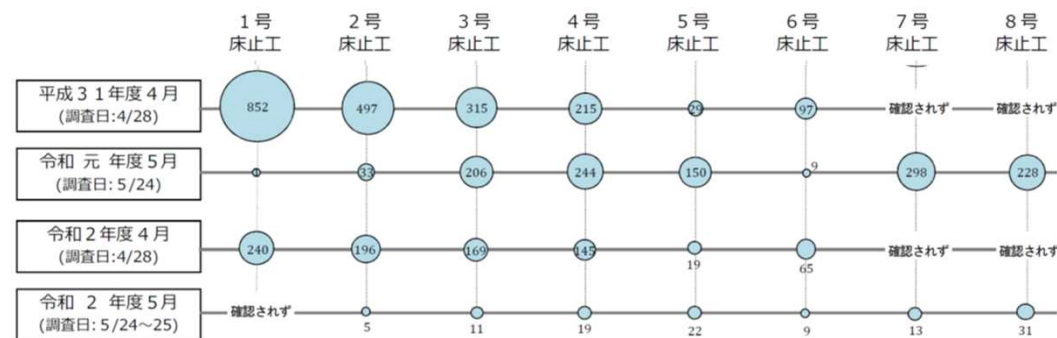
Check

- ・H30台風被害により2箇所が流出したが、残った1箇所のオグラコウホネ生育地保全状況を経過観察
- ・さらに1箇所を再生、経過観察

Plan 【第2期計画】 (管理番号15)

- ・魚道の改善
- ・みお筋、産卵場、稚魚期の生息場所の保全・再生

Do 【令和2年度実績】 アユ遡上調査を継続実施



- ・左図は各年度、4月・5月調査のうち個体数が多い方を反映
- ・H30年夏の高温で、個体数の減少が見られる

県立人と自然の博物館と共同で実施

Check

- ・魚類によって望ましい川づくりに向け取組を実施。
- ・各取組の結果等を踏まえ、望ましい魚道構造等を検討していく。
- ・夏季高水温による個体減少が顕著であったため、今後、専門家等の意見を聞きながら対策を検討。

実施目標

- ・ 自然景観を基調とした武庫川らしい景観を保全・創出する。(管理番号16)
- ・ 人と河川の豊かなふれあい及び適正な河川利用の確保。(管理番号17)

Plan 【第2期計画】(管理番号16)

- ・ 自然景観を基調とした武庫川らしい景観の保全・創出
- ・ 治水上支障がない範囲での緑化修景

Do 【令和2年当時年度実績】(管理番号16)

植生の回復状況(H24施工箇所)



武庫川上流(岩鼻橋上流)

護岸前面を覆土し緑化



下流部築堤区間(堤防強化実施箇所)

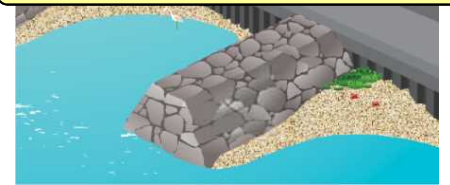
Check

- ・ 治水上支障の無い範囲で堤防法面の緑化など自然環境を基調とした武庫川らしい景観の保全・創出を実施。

Plan 【第2期計画】(管理番号17)

- ・ 地域住民の多様な要請への対応
- ・ 河川利用の利便性の確保と自然を生かした水辺の創出や施設整備

自然を生かした水辺(干潟)の創出



Do 【令和2年度実績】(管理番号17)

地域住民の多様な要請への対応



Check

- ・ 地元説明会や出前講座等を通じた広報に努め、地元の理解を得ながら、円滑に工事を実施していく。

実施目標

- ・ 関係機関や地域住民と連携して、さらなる水の「質」の向上を図る。(管理番号18)
- ・ 適切な河川維持管理に取り組む。(管理番号19)

Plan 【第2期計画】
 ・ 下水道事業等に関するPR (管理番号18)
 ・ 水質状況の的確な把握
 ・ 水生植物による浄化機能の向上

Plan 【第2期計画】
 「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じて維持・修繕工事、樹木伐採等を実施する。

Do 【令和2年度実績】 (管理番号18)

水質汚濁防止法に基づき
水質・底質調査を継続



Do 【令和2年度実績】 (管理番号19)

土砂撤去の事例

樹木伐採の事例



仁川合流点 (西宮市)

(三田市)

Check

- ・ 下水道事業については住民、事業者の雨水浸透施設の整備促進下、下水道事業に関するPRに取り組んでいく。
- ・ 水質汚濁防止法に基づき公共水域の水質調査等を継続して実施。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は河川は環境基準を達成。湖沼は非達成。)

Check

- ・ 「兵庫県河川維持管理計画」に基づき、定期的に点検を行ない河川の状態を把握し、効果的・効率的な維持管理を実施。

実施目標

- ・ 適切な役割分担のもと、「参画と協働」による武庫川づくりに取り組む。(管理番号20)
- ・ 治水・利水・環境の観点から河川の総合的な管理を行う。(管理番号21)

Plan 【第2期計画】 (管理番号20)

- ・ 参画と協働の推進
- ・ 連携・交流の支援等の継続実施

Do 【令和2年度実績】 (管理番号20)

第9回みんなで取り組む武庫川づくり交流会
(台風襲来のため中止)



兵庫県では、地域のみなさんと武庫川づくりに取り組むため、毎年、交流イベントを開催している。今年度は、仁川合流点に溜まった土砂を撤去し、流れに支障となる木々も伐採しました。このお祭れ泳ぐ祭りが以前より多くなっています。3年ぶりにアユの祭も確認できました。交流会では、河原の丸石を組み合わせて、様々な水生生物の隠れ家づくりと、事前に設置してある水生生物の観察会を行います。武庫川にはモズガニやウナギなど様々な生物がすんでくればいろいろな生物が観察できます。

- Check**
- ・ 地域住民との連携を支援・促進するためのさまざまな取り組みを適宜・適切に実施。

Plan 【第2期計画】 (管理番号21)

- ・ 定期的な観測によるデータの把握
- ・ 事業実施前後のモニタリング
- ・ 流量観測データの蓄積

Do 【令和2年度実績】 (管理番号21)

河川水位観測状況
(低水流量観測)



河川ライブカメラによる
観測情報の公開



- Check**
- ・ 雨量や河川水位等のモニタリング調査を継続的に実施。
 - ・ 流量観測(低水・高水)を継続的に実施。

実施目標 河川整備計画の着実な推進（管理番号22）

Plan 【第2期計画】

- ・ 河川整備の進行管理
- ・ フォローアップ委員会（懇話会）の実施
- ・ 流域住民との情報の共有

Do 【令和2年度実績】

第8回フォローアップ懇話会の開催



- ・ 第2期期別計画の総括及び第3期期別計画の確認
- ・ 事業概要・進行管理表をホームページで公表

流域住民との情報共有



- ・ 事業説明・現地説明会（9回開催）参加者累計 57人

Check

- ・ PDCAサイクルの考え方に基づく進行管理を実施し、ホームページで公表するとともに、流域住民等との情報の共有化を図った。
- ・ 今後も同進行管理により、整備計画の次なる進行と改善に努めていく。